

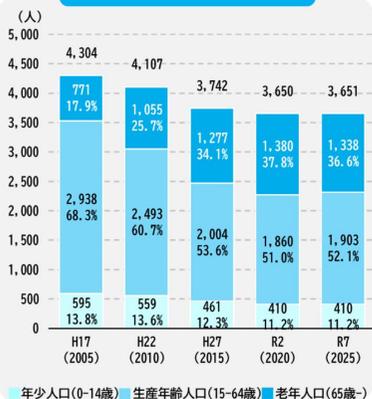
高南地区

構成自治会連合会：高南



電車や道路の交通網が整っていて便利な地域です。徒歩圏内に教育、スポーツ、医療、商業施設が充実していて暮らしやすいほか、自然も豊かで子育てもしやすい地域です。

人口推移



現状 (SWOT分析「強み」から)

1. JR 袋井駅やノブレスパルクなどの商業施設が徒歩圏内にあり、生活の利便性が高く、子育て世帯や高齢者にとっても便利な立地です。
2. 地区内や近隣に教育、スポーツ、医療、福祉施設が集積しており、介護予防や高齢者向けスマホ教室など、世代に応じた支援も進んでいます。
3. 自然が豊かで、小笠沢川沿いに桜並木やウォーキングコースがあり、静かで治安の良い住宅街が広がっています。
4. 子どもから高齢者までが交流する「あえるもん」などの活動により、助け合いの精神が根付いています。
5. 教育意識の高い住民が多く、教育・子育てがしやすい地域です。
6. 外国人住民も多様に暮らしています。
7. 防犯・防災意識が高く、まちづくり協議会の防災部会や防犯パトロール活動も盛んです。

課題 (SWOT分析「弱み」から)

1. 地盤の特性や秋田川の排水能力不足により、大雨・台風時の浸水被害が発生するなど、治水対策が求められています。液状化リスクのほか、排水機場や上下水道など公共施設の老朽化にも不安があります。
2. 地区内の東西道路は通過車両が多く、歩道が未整備な箇所もあります。また、公共交通機関がなくなり、高齢者や障がい者にとって、駅には近いが徒歩では遠く感じるとの声もあります。
3. 空き家や空き店舗、荒廃農地が増加しており、景観の悪化や地域の活力低下が懸念されます。
4. 高齢化率の上昇と少子化により、自治会役員や地域活動の担い手が不足しています。
5. 自治会活動への参加率が低下し、秋祭りや草刈りなどの活動の継承が難しくなっています。また、外国人住民との関係性や参加促進も課題となっています。

まちづくりの方針図



スローガン 目指すまちの姿

にぎわいと安心・安全が共存する
住みよいまち

まちづくりの推進方針

1. 交流とにぎわいのあるまちづくり

駅に近い立地や地域資源を活かして住民が交流することでにぎわいを生み出し、多様な世代や外国人など誰もが共生できるまちを目指します。

2. 安心で住みやすい、快適なまちづくり

治水対策などを強化し、災害に強い安心・安全なまちづくりを推進します。地区住民の力をあわせ、移動しやすく、快適に生活できるまちを目指します。

地域内の取組

まちづくり協議会主導

- 防災活動への中学生・高校生や消防団員の参加促進
- 住民の実状に合わせた自治会活動の見直し
- 外国人のまとめ役の配置(マナー、ごみ出しルール、コミュニティ参加など)
- 一人暮らし高齢者や外国人への声掛け運動・・・目標「共生社会創造」
- 自治会活動のデジタル化

- Fukuroi Central Park 推進事業への参画
- 空き家対策(マップづくり含む)及び住民の見守り
- 若者や高齢者が活躍する場や集いの場として空き店舗の有効活用(「あえるもん」の横展開)
- 住民の高齢化や老朽化する高南住宅団地の再生対策
- 地域主体による住民の「移動手段検討組織」の組成と事業への支援
- 行政と地域が支え合う公共交通の仕組みづくりの取組

行政主導

- ◇ 秋田川排水区整備事業
- ・柳原雨水ポンプ場整備事業
- ・秋田川改修事業

○ まちづくり協議会が主導する取組 □ 協働による取組 ◇ 行政が主導する取組

地域のみなさんの声 (取組を進める上で参考となる意見など)

- 高南地区は水害対策が第一課題。早期に前倒しで行ってほしい。
- ポンプ場ができるまでの間、通水断面確保のため水路の除草を年に2回は行ってほしい。地域も協働する。ポンプ場が止まらないように、定期的に点検してほしい。
- デジタルを活用した情報発信や交換をしたい。住民がスキルを学べる窓口があるとよい。
- 空き家が増えていて防犯面で心配。空き家の解体補助などがあるとよいのではないかと。
- 袋井駅の南北出口は、市民から募集した秋葉口・駿遠口の愛称を使用してほしい。
- 「まちじゅう図書館」の取組は素晴らしい。郷土資料の保存や所蔵機能の充実も進むとよい。
- 能登半島地震を見て、早期に日常生活に戻れるよう事前の復旧復興計画が必要だと強く感じる。
- 水の流れの悪い場所を確認して、排水溝マップを作成したらどうか。
- セントラルパーク内にマンホールトイレやかまどベンチ、防災自販機など、防災機能を備えてほしい。